
【研究主題】 特別支援学校における自己指導能力を育む情報モラル教育の実践**【副題】 なし****【学校・団体名】 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校****【役職名・氏名】 教諭 今井 彩**

1 はじめに

2020年3月2日より、新型コロナウイルス感染症の影響により政府の要請を受けて全国の学校が一斉臨時休業となった。また、4月7日には、政府の緊急事態宣言を受けて引き続き臨時休業となった。本校は5月中旬から分散登校が始まり、感染のリスクを避けながら通常の学校再開を目指した。休業中はホームページから児童生徒に向けた学習コンテンツを配信したり、オンライン授業を視野に入れ、家庭における情報通信ネットワーク環境を調査したりした。その結果、ほぼ全ての家庭がインターネットを使用できる環境であることが分かった。

本校高等部の生徒は1人1台タブレット端末を所有している。校内のWi-Fi環境やIT機器も整っており、近年はICTを活用した学習活動の充実を図っている。新たな未来社会 society5.0 や生徒の卒業後の生活を見据え、生徒が自分の能力・個性等に応じて適切にタブレット端末や携帯電話等の情報通信端末を有効活用しながら、他者と関わったり、余暇を充実させたりできるようにしていきたいと考えている。

2 主題設定の理由

本校は知的障害を主とする特別支援学校である。高等部では、起こりうる事態を推測したり、他者の思いをくんで行動したりすることが難しい生徒や、適切な対人関係を築くことを苦手とする生徒が多い。このことから、インターネットや携帯電話等の利用において、生徒がトラブルに巻き込まれたり、トラブルを引き起こしたりすることが想定できる。また、インターネットや携帯電話等を巡る社会的な問題が後を絶たないことや、本校高等部の生徒22名中14名が自分専用の携帯電話を所持していることから、生徒が情報社会や

ネットワークの影の部分の問題に自ら気づき、今後、インターネットや携帯電話等を利用する上で適切な判断、行動をしていけるような「自己指導能力」を育みたいと考え、本主題を設定した。

3 研究仮説

インターネットや携帯電話等の利用に関する身近なトラブルをテーマに、生徒が自ら問題点に気付けるよう、意見交換をしたり、ロールプレイをしたりする活動を取り入れ、当事者意識をもって適切な判断や行動について考える場を設けた情報モラルの学習をすることで、生徒の自己指導能力を育むことができるだろう。

4 研究計画**<5~6月>****保護者・生徒への情報モラルの育成に関するアンケート調査①**


インターネット・携帯電話等の利用に関する生徒の実態を把握し、保護者からのニーズを聞き取る。

高等部情報モラル学習の計画の立案**<9~10月>****保護者・生徒への情報モラルの育成に関するアンケート調査②**

アンケート調査①と同じ内容の調査を行い、調査結果から保護者・生徒の変容を見取り、学習内容や指導方法を見直す。

<1~2月>**保護者・生徒への情報モラルの育成に関するアンケート調査③**

1年間の学習を振り返るアンケート調査を実施し、成果と課題をまとめる。



学習計画に沿った授業の実施

5 研究の実際

(1) 保護者・生徒へのアンケート調査①

インターネット・携帯電話等の利用について「家庭で決めているルールがある」という質問項目に「はい」と答えた保護者が22名中13名であるのに対し、生徒は7名であった。このことから、家庭におけるルールを認識していない生徒がいることが分かった。また、携帯電話の主な使い方が「LINE等のSNS」と答えた生徒が6名おり、その6名の内2人がネットやSNSの利用に関して過去にトラブルに遭っていることが分かった。

「学校で指導してもらいたいこと」への質問項目では、「SNS等ネット上で被害に遭わないようにすること」が12名と半数を占めた。

(2) 情報モラル教育の学習計画立案

アンケート調査の結果から得られた情報やニーズから、主にSNSに関するトラブルやネット上の被害をテーマにした学習計画を立てた。また、これまでの小・中学校における情報モラル教育の実践例や、LINE 株式会社が提唱する情報モラルの学習を参考にし、特別活動の時間において年間8回学習を実施することにした。

(3) 自己指導能力を育む取組

① 学習グループの編成

携帯電話等の利用状況や生徒の対人スキルに関する実態に応じ、学部縦割りので3つの学習グループ（表1）を編成した。それぞれの学習グループの生徒の実態に合わせ、各グループの担当教員が指導方法を工夫しながら学習を進めた。

② ロールプレイの実施

A・Bグループの生徒が、自ら問題点に気付いたり、当事者意識をもって学びを日常に生かそうとする意識を高めたりできるよう、実際に自分の所有するタブレット端末を使ってロールプレイを行う場を設けた。Cグループでは、対人スキルを高めていけるよう、教師と一緒にロールプレイを行い、適切な伝え方や行動の仕方を確認した。

③ 相互評価の場の設定

生徒が問題を共有し、情報モラルへの意識を高められるよう、ロールプレイで実施したやり取りや出された意見について評価し合ったり、改善点を伝え合ったりする場を設けた。

表1 グループ別の実態

A グループ	<p>【携帯電話の所持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話を所持している。 ・利用頻度が多い。 <p>【SNS等の利用頻度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に使用 <p>【対人スキル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常会話に支障はない。 ・複雑な指示理解が難しい。 ・休日、友達と外で遊ぶことがある。
B グループ	<p>【携帯電話の所持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話を所持しているが、利用頻度は少ない。もしくは携帯電話を所持する予定がある。 <p>【SNS等の利用頻度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少ない <p>【対人スキル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや気持ちを伝えることあまり得意ではない。 ・休日は家の人と過ごすことが多い。
C グループ	<p>【携帯電話の所持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話を所持していない。もしくはキッズ携帯を所持している。 <p>【SNS等の利用頻度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼない ・全くない <p>【対人スキル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝えることや相手の気持ちをくみ取って行動することが困難である。

(4) 前期の学習

第1回目の授業（表2）では、Aグループの生徒から、SNSの利用について利便性や危険性について多くの意見が出された。実際に被害に遭ったことはなくても、ネットやテレビ等で様々な情報を得ていることが分かった。

第2回目以降の授業は、日常モラルと組み合わせることで考えることができるようなテーマを設定した。「自分だったらどう行動するか」

「相手はどう思うか」という問い掛けをし、当事者意識をもって考えられるようにしたことで、生徒から「携帯電話を使う時間を決めるとよい」「勝手にSNSに写真を投稿されるのは嫌だ」といった意見が出た。

表2 授業の実際（前期）

<p>第1回 いいところ探し・危ないところ探し</p> <p>【学習活動】</p> <p>生活に欠かせない便利なもののいいところと悪いところについて意見を出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aグループ→「通信機器」PC、スマホ等 ・Bグループ→「乗り物」クルマ、バイク等 ・Cグループ→「刃物」包丁、はさみ等 <p>【生徒の気付きポイント】</p> <p>どんな便利なものでも使い方を間違えると自分や他人に危害が加わる。</p>
<p>第2回 生活を見直そう！</p> <p>【学習活動】</p> <p>携帯電話を使いすぎて遅くまで起きていたり、食事をしなかったりする動画を見て、生活にどのような影響があるのかを考えて意見を出す。</p> <p>【生徒の気付きポイント】</p> <p>自分の生活を充実させるために、やりたいことは時間を決めて行なったほうがよい。</p>
<p>第3回 知らない人に要注意！</p> <p>【学習活動】</p> <p>知らない人に個人情報を教えることでどんな危険性があるか考えて意見を出す。また、個人情報を聞かれたときの対応の仕方について考え、ロールプレイを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aグループ→アカウントを聞かれる ・Bグループ→家の電話番号を聞かれる ・Cグループ→iPadを貸してと言われる <p>【生徒の気付きポイント】</p> <p>自分の情報を知らない人に教えることは危険。はっきりと断ったほうがよい。</p>
<p>第4回 相手のことを考えよう①</p> <p>【学習活動】</p> <p>他者のものを使うときに、どんなことに気を付けなければいけないかを考え、ロールプレイを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aグループ→友達の絵をSNSに載せる ・Bグループ→友達の絵をまねして描く ・Cグループ→友達の本を勝手に読む <p>【生徒の気付きポイント】</p> <p>他者のものを使うときには、必ず許可を得る必要がある（著作権）。</p>

(5) 保護者・生徒へのアンケート調査②

2回目のアンケート調査で、「家庭で決めているルールがある」の質問項目に「はい」と答えた保護者の数が14名と前回から1名増えた。また、同様の質問に対して生徒も同数の14名と前回から7名増え、保護者の回答と一致した。家庭におけるルールを認識した生徒の数が増えたことについては、情報モラルの学習を通して、生徒がルールの必要性を理解したからではないかと分析する。

生徒の「スマホやタブレット端末を使うときに気を付けていること」への自由記述では、「知らない人からのメールや電話には応じない」「人に迷惑を掛けない」といった記述があった。このことから、インターネット・携帯電話を適切に利用することへの意識が高まってきていることが分かった。



写真 職員で制作した動画のワンシーン

(6) 後期の学習

後期はグループLINEやAirDropなど、ふだんから生徒が使用している身近な機能をテーマとしたことで、トラブルに合わないような適切な判断や行動について当事者意識をもって考えられるようにした。

第5回目の授業では、社会問題となったニュースをテーマにした。生徒の多くがニュースの内容を知っており、関心の高さがうかがえた。授業では、「本当に死んでほしいと思っていなくても、誰が言ったか分からないから簡単に『死ね』って言える」などと、Aグループの生徒からSNSの特性を捉えた発言があった。また、第7回の授業後、学習中AirDropで写真を送るときに、Cグループの生徒が「送るよ！いい？」と許可を求め、学んだことを実践していた。

表3 授業の実際（後期）

<p>第5回 相手のことを考えよう②</p> <p>【学習活動】</p> <p>誹謗中傷により自殺してしまった女性プロレスラーのニュースをテーマに、相手を言葉で傷付ける行為についてどう思うか、相手を傷付けないように普段から気を付けた方がよいことについて考え、意見交換をする。</p> <p>【生徒の気付きポイント】</p> <p>人によって傷付く言葉は違う。相手がどう受け取るのかを考え、気を付けて言葉を使う。</p>
<p>第6回 相手のことを考えよう③</p> <p>【学習活動】</p> <p>写真を隠し撮りすることにはどんな問題があるのか、もしその写真を勝手に他人に公開したらどんな問題が起こるのかを考え、意見交換をする。また、他者の写真を撮るときの適切な方法についてロールプレイをする。</p> <p>【生徒の気付きポイント】</p> <p>勝手に写真を撮ることは相手を不快にさせる。他人の写真を勝手に公表することは大きな問題（肖像権の侵害）につながる。</p>
<p>第7回 AirDrop 機能を安全に使おう！</p> <p>【学習活動】</p> <p>無作為に不快な写真や動画を送りつけられる AirDrop テロの疑似体験し、AirDrop 機能を使うときの注意点について考え、意見を出し合う。また、適切な AirDrop の使い方について実際に情報通信端末を用いてロールプレイをする。</p> <p>【生徒の気付きポイント】</p> <p>知らない人からの AirDrop は辞退する。自分が AirDrop 機能を使って友達に写真や動画を送りたいときは、必ず許可を得て送る。</p>
<p>第8回 どうしたら仲よくなれる？</p> <p>【学習活動】</p> <p>相手からしつこくされたり、きつい言い方をされたりすると、どのように感じるか、また、そういった行動への対処方法について考え、意見交換をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Aグループ→しつこい LINE や電話 ・ Bグループ→きつい言い方をする人 ・ Cグループ→しつこくする人 <p>【生徒の気付きポイント】</p> <p>相手を思いやる気持ちや行動が大切。嫌なことは「嫌です」「悲しい」「やめてほしい」と正直に伝えることも自分を守るために大切。</p>

6 成果と課題

3回目となる生徒へのアンケート調査において、生徒22名中、質問への理解や記述が困難な生徒4名を除き、18名全員が「情報モラルの学習をしてよかったと思うか」の質問項目に「はい」と回答した。また、その理由を記入する自由記述においては、以下のような内容となった。

- ・危険なことを知ることができた
- ・スマホの使いすぎに気を付けたい（3）
- ・友達の気持ちが分かった
- ・著作権、肖像権について分かった（6）
- ・AirDropの安全な使い方が分かった（3）
- ・人が傷付く言葉は言わない（3）
- ・上手なやりとりの仕方が分かった

生徒の記述から、適切な判断や行動について考える自己指導能力が育まれてきていることがうかがえる。また、生徒が情報モラルの学習に意欲的に取り組んでいたことを受け、年度末評価では高等部職員から「道徳的な側面でも効果があった」等と高い評価を得ることができた。

保護者へのアンケート調査では、「情報モラルの学習について家庭で話題にした」という項目について「はい」の回答が22名中10名と半数以下だった。このことから、家庭への情報発信が不足していたことが課題となった。今後は保護者向けの研修会を実施したり、学部PTA等で学習活動を紹介したりするなど、保護者への啓発も進めたい。

7 今後の展望

本校高等部には、相手を大切にしたい行動や、相手のことを思いやった発言ができる生徒が多い。この風土を守り、情報通信端末を用いたコミュニケーションツールを有効活用できるようにしたい。2020年度を取組を発展させ、今年度は新たに「情報の学習の時間」を設けた。引き続き、生徒の自己指導能力を育みながら、これからの社会に必要な情報活用能力の習得を目指した指導にも力を入れたい。

<参考文献>

- ・文部科学省 生徒指導提要
- ・文部科学省 情報モラル実践事例集
- ・LINE株式会社 SNS ノート情報モラル編活用の手引き